

ハウスニガウリにおける被覆燐硝安加里肥料の植穴施肥栽培

研究のねらい

近年、環境保全的な農業を目指した肥料の効率的な施用法について関心が高まっている。

また、土壌消毒法として陽熱消毒を行った場合、消毒後にできるだけ土壌を攪拌せずに施用する方法が求められている。県内ではニガウリの生産量が年々増加していることもあり、ハウスニガウリにおいて植穴施肥栽培で3割減肥時の効果を確認する。

研究の成果

- ①植穴施肥で3割減肥しても、ニガウリの総収量・上物収量は、県慣行よりも2割以上多くなり、その効果はロング（植穴70日単用）、ロング（40・100日混合）で特に高い。ロング全面全層施肥では県慣行よりも減少する（図2）。
- ②2006年のロング肥料の全窒素溶出率が80%に達するのに要した日数は、40日、70日、100日タイプそれぞれ約70日、約80日、約120日である。地温は16℃から28℃で推移している。
- ③栽培期間中の植物体の無機成分含有率については、区による大きな差は見られない。



図1 植穴施肥の概念



写真1 植穴施肥法

8.0

図2 総収量

問い合わせ先：土壌環境部
TEL 0985-73-2124